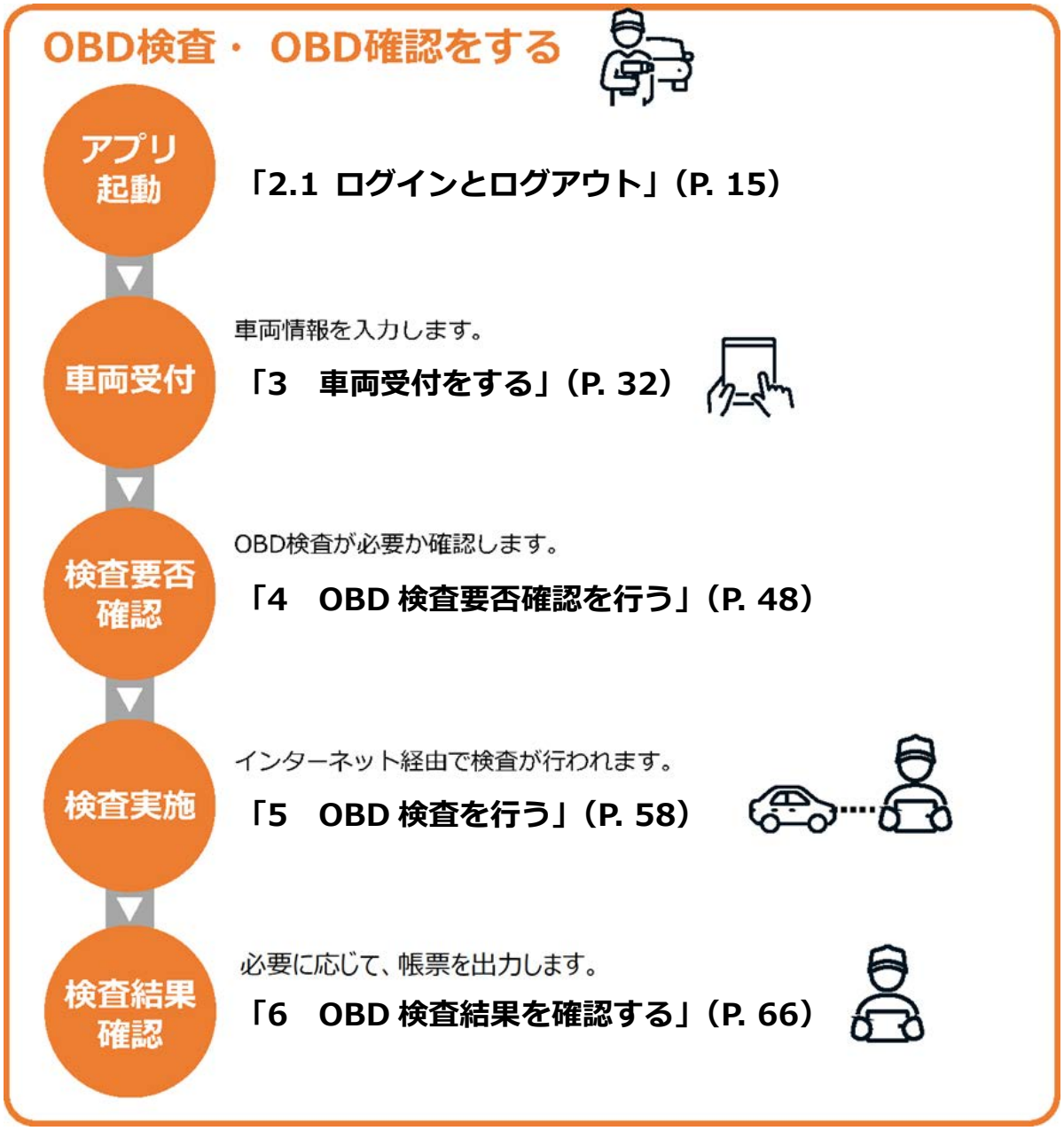
1 はじめに

1.1 特定 DTC 照会アプリとは

特定 DTC 照会アプリ【Windows】（以降、「アプリ」と記載）は、車両が OBD 検査の対象であるか確認を行い、車両や OBD 検査用サーバーと通信して OBD 検査の合否を判定するためのアプリケーションです。



アプリは、システムのメンテナンス時間を除き、24 時間 365 日利用できます。

メモ

システムのメンテナンス時間は、あらかじめメニュー画面の「お知らせ」で通知されます。「お知らせ」の確認方法については、「■メニュー画面から操作する」（P. 24）を参照してください。

■OBD 検査とは

OBD 検査とは、自動運転技術などに用いられる電子制御装置が適切に機能しているかを確認する検査です。国の定める自動車検査の検査項目として、令和 6 年 10 月 1 日（輸入車は令和 7 年 10 月 1 日）に新たに追加されました。OBD 検査の対象となる車両は、国産車は令和 3 年 10 月 1 日以降の新型車（フルモデルチェンジ車）、輸入車は令和 4 年 10 月 1 日以降の新型車（フルモデルチェンジ車）です。

メモ

- OBD 検査の対象となる車両の電子車検証には、「OBD 検査対象」（車検証等の場合は「OBD 検査対象車」）などの記載があります。
- OBD 検査の対象となる車両であっても、以下に該当する場合には、OBD 検査が不要となります。OBD 検査の要否は、アプリまたは OBD 検査結果参照システムで確認してください。
  - 型式指定の日から 2 年を経過していない車両
  - 初度登録年月または初度検査年月の前月の末日から起算して 10 ヶ月を経過していない車両

■OBD 検査モードと OBD 確認モード

アプリには、OBD 検査と OBD 確認の 2 つの検査種別（モード）があります。利用者・用途に応じて利用するモードを選択してください。

なお、OBD 検査モードと OBD 確認モードの操作手順に大きな違いはありません。

モード	利用者	用途
OBD 検査	指定工場の検査員	法令に準拠して OBD 検査を実施する際に使用します。
OBD 確認	指定工場、認証工場の工員および検査員	点検・整備時に、OBD 検査と同等の確認（OBD 確認）を行う際に使用します。ただし、以下の条件等により実施できる項目または表示内容が異なる場合があります。 【OBD 検査対象車（OBD 検査適用（開始）時期以降)】 • OBD 検査と OBD 確認で実施できる項目は同一です。 【OBD 検査対象車（OBD 検査適用（開始）時期以前)】 • 一部の車両において、安全関係装置の OBD が確認できません。 • 排ガス関係の OBD を確認できますが、一部の車両において DTC（コード）のみが表示され、DTC の名称（異常内容）が表示されません。 【OBD 検査対象外車（J-OBD Ⅱ またはディーゼル重量車 J-OBD Ⅱ 規制)】 • 国際規格（OBD Ⅱ）に準拠した排ガス関係の OBD を確認できますが、DTC の名称（異常内容）が表示されません。 【OBD 検査対象外車（J-OBD Ⅰ 規制)】 • 「検査要否確認」および「実行」まで操作が可能ですが、通信不成立となる場合があります。 【OBD 検査対象外車（排ガス規制を受けない車両（EV、FCV 等)】 • 「検査要否確認」まで操作が可能です。「実行」の操作は行えません。

メモ

参考（排ガス規制の適用年）
＜J-OBD Ⅱ 規制車（現 WLTP-OBD 規制車）＞～車両総重量 3.5 t 以下のガソリン・LPG 車～
新型車：平成 20 年 10 月以降
継続生産車、輸入車：平成 22 年 9 月以降
＜ディーゼル重量車 J-OBD Ⅱ 規制車＞～車両総重量 3.5 t 超のディーゼル車～
新型車：令和 2 年 10 月以降（※）
継続生産車：令和 3 年 9 月以降（※）
※車体の形状または車両総重量により適用時期が異なるが、適用のもっとも遅い時期を記載

ご注意

本マニュアルでは、OBD 検査モードの画面と操作手順を説明しています。
必要に応じて OBD 確認モードに読み替えてください。

■アプリの機能

OBD 検査で使用する機器などの設定

車両との通信に使用する検査用スキャンツールや、電子車検証または車検証等の読み取りに使用する二次元コードリーダなどの設定状況を確認・変更できます。

OBD 検査の実施

入力した車両情報に基づき、OBD 検査の要否を確認したうえで、必要に応じて OBD 検査を実施します。
OBD 検査では、検査用スキャンツールを介して車両から特定 DTC 等の情報を読み取り、アプリに合否判定の結果を表示します。

OBD 検査結果の出力

アプリで実施した OBD 検査の詳細結果は、帳票（PDF 形式）および CSV 形式のファイルとして出力することが可能です。

- 帳票（PDF 形式）：検査結果を印刷することで、自動車使用者の方への説明などに活用できます
- CSV 形式：外部システムへのデータ取り込みなどに利用できます

検査に用いる付帯情報の閲覧

入力した車両の諸元情報やリコール情報が閲覧できます。
なお、以下に該当する場合は、付帯情報が閲覧できないことがあります。

- 車名コードが特定できない場合：リコール情報が閲覧できません
- 類別区分番号が特定できない場合：諸元情報が閲覧できません

1.2　必要な機器や書類、アプリを使う前の作業

■アプリの動作環境

アプリは Windows がインストールされた PC またはタブレットにインストールして使います。Windows がインストールされた PC またはタブレットは、以下の動作環境を満たす必要があります。

- CPU　1GHz 以上
- メモリ　2GB 以上
- ディスク　C ドライブ空き容量 1 GB 以上
- OS　Microsoft Windows 11

> **メモ**
> バージョンの詳細については OBD 検査ポータルを参照してください。

- ソフトウェア　.NET Framework 4.6.2 以上
  Microsoft Visual C++再頒布可能パッケージ（x86）（2017 以上）32bit 版

> **メモ**
> ソフトウェアのバージョンを確認するには、Windows のスタートボタン→「設定」→「アプリ」→「アプリと機能」の順に選択し、確認したいソフトウェアを選択します。

- ネットワーク通信　有線または無線でインターネット接続が可能であること

■アプリで OBD 検査を行うための条件

アプリで OBD 検査を行うためには、以下の条件があります。

- アプリを使っている（起動している）間は、インターネットを常に接続状態にしていること
- 検査用スキャンツールの端末（Windows がインストールされた PC またはタブレット）に、アプリがインストールされていること。アプリのインストールについては、「7.6 アプリをインストールしたいとき」を参照してください。
- 検査用スキャンツールの端末に、1 つの Windows ユーザーにつき、1 つのクライアント証明書がインストールされていること。クライアント証明書のインストールについては、管理責任者または統括管理責任者に確認してください。（『利用者管理システム 操作マニュアル』を参照）
- 検査用スキャンツールの端末に、検査用スキャンツールの技術基準に適合する VCI ドライバがインストールされていること。VCI ドライバのインストールについては、各スキャンツールメーカーの取扱説明書を参照してください。
- 特定 DTC 照会アプリは、Administrator ユーザーの Windows ユーザーはご利用いただけません。お使いの Windows ユーザーが Administrator ユーザーだった場合は、新しい Windows ユーザーを作成のうえ、検査用スキャンツールをご利用ください。

■OBD 検査に必要なもの

アプリを利用して OBD 検査を行うには、以下の機器や書類が必要です。

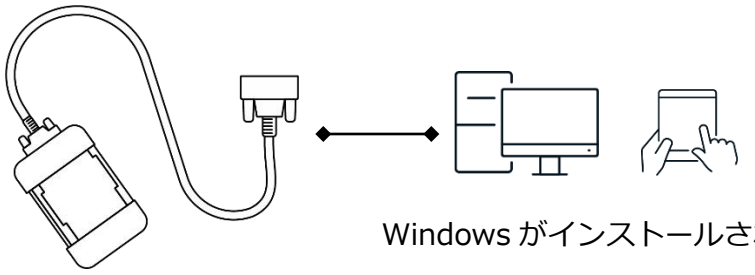
必須

- 電子車検証または車検証等

電子車検証

車検証等

- 検査用スキャンツール



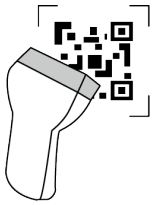
VCI

Windows がインストールされた
PC またはタブレット

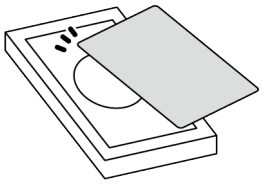
- 車両

任意

- 二次元コードリーダまたは IC タグリーダ



二次元コードリーダ



IC タグリーダ（電子車検証）

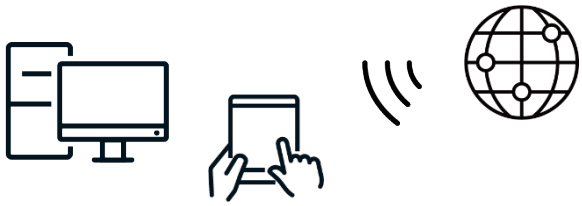
ご注意

二次元コードリーダ、IC タグリーダには、機器によって初期セットアップが必要なものがあります。
セットアップ方法については、各機器の取扱説明書を参照してください。

■アプリを使う前の確認

以下の作業や確認が行われていることをチェックしてください。

☐ **端末、インターネット環境が用意されている**



☐ **アプリを使用する端末に、クライアント証明書がインストールされている**

使用する端末には、1 つの Windows ユーザーにつき、1 つのクライアント証明書が必要です。クライアント証明書のインストールについては、管理責任者または統括管理責任者に確認してください。

（『利用者管理システム 操作マニュアル』を参照）

☐ **使用する端末に、アプリがインストールされている**

インストール手順については、「7.6 アプリをインストールしたいとき」を参照してください。

☐ **アプリを使用する端末に、検査用スキャンツール（VCI）のドライバがインストールされている**

インストール手順については、各スキャンツールメーカーの取扱説明書を参照してください。

準備ができたら、アプリを使い始めましょう。